

BODY & NECK

“どんな組み合わせのボディ・ネックが自分の求める音だろうか?。——まず、ボディ・ネックとしてピックアップ等それぞれの特徴を把握することが必要です。ボディにネックがジョイントされ、ペグ及びブリッジが取り付けられ、そして弦が張られてゆく。その場合のボディとネックが緊張した状態——この状態でのその楽器の構造がどうかであるかです。鳴り方が決定します。あとはそれらの音色と鳴りをピックアップを含むハードウェアがどう影響するかです。

ギターもベースもその構造・状態で張られる弦の張力が決定されます。形状がよくなった楽器でもそのネックの仕込み角度やヘッド角度、ボディにセットされたブリッジ等により、同じゲージの弦をセットしても張力がまったく違ってくる。そして、その違いが楽器の鳴り方を決定します。更にそこに作り出された条件に加え、木材の材質特性、ハードウェアの質量等で音質が最終的に決定します。

音質はもちろんジョイントされたネック材及びハードウェアによる影響を受けるのですが、それ以前にボディ材、ボディ形状によって根本的な音質特性は決定されます。これはマウントするピックアップとの高性にもあります。同じ形状のボディでも質量のある重い材質のボディは一般に低域のよく出る特性を備え、逆に軽いものは低域が出にくい、中高域を主とする特性になりやすくなります。これはもちろん各材質によって特性は大きく異なりますが、一般的な重量による特性は軽視できません。よく重い楽器は演奏が楽という理由で軽い材質のものを使用されているプレーヤーがいますが、それはよく幅広い低域を見のがしてしまつた事になります。特にベース等の本当の最低音は、ある程度の質量を備えた材でなければ得られません。しかし、逆に最低音より、タイトな中音を得たとしても、フィニッシュサウンドを求める方には、アルダー等の軽い材とヴィンテージサウンドを重視する方は、組み合わせがベストでしょう。

アルダー/樺(ハンノキ)	アッシュ/トネリコ	マホガニー	ウォルナット/クルミ	セ ン	パドック	チーク/桧
<p>●樹 木 北米産に広く分布し、ヨーロッパ、アメリカで重要な木材です。アッシュとグレイ・アルダーはヨーロッパ、レッド・アルダーはアメリカで重要な木材です。この種の特性は木材の密度と関係する。密度が高ければ、音質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●木 材 成長後の木材は淡黄色ですが、外側から赤や茶色になることがあります。これは乾燥によるものです。材質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●平均的音質特性 高音が鋭く、低音が柔らかい。音域が広く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p>	<p>●樹 木 アメリカ・マホガニーとアッシュ・マホガニーの一種が有名です。アッシュ・マホガニーは、アッシュ・マホガニーの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュ・マホガニーは、アッシュ・マホガニーの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●木 材 成長後の木材は淡黄色ですが、外側から赤や茶色になることがあります。これは乾燥によるものです。材質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●平均的音質特性 高音が鋭く、低音が柔らかい。音域が広く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p>	<p>●樹 木 アメリカ・マホガニーとアッシュ・マホガニーの一種が有名です。アッシュ・マホガニーは、アッシュ・マホガニーの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュ・マホガニーは、アッシュ・マホガニーの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●木 材 成長後の木材は淡黄色ですが、外側から赤や茶色になることがあります。これは乾燥によるものです。材質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●平均的音質特性 高音が鋭く、低音が柔らかい。音域が広く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p>	<p>●樹 木 アメリカ・マホガニーとアッシュ・マホガニーの一種が有名です。アッシュ・マホガニーは、アッシュ・マホガニーの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュ・マホガニーは、アッシュ・マホガニーの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●木 材 成長後の木材は淡黄色ですが、外側から赤や茶色になることがあります。これは乾燥によるものです。材質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●平均的音質特性 高音が鋭く、低音が柔らかい。音域が広く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p>	<p>●樹 木 アメリカ・マホガニーとアッシュ・マホガニーの一種が有名です。アッシュ・マホガニーは、アッシュ・マホガニーの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュ・マホガニーは、アッシュ・マホガニーの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●木 材 成長後の木材は淡黄色ですが、外側から赤や茶色になることがあります。これは乾燥によるものです。材質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●平均的音質特性 高音が鋭く、低音が柔らかい。音域が広く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p>	<p>●樹 木 アメリカ・マホガニーとアッシュ・マホガニーの一種が有名です。アッシュ・マホガニーは、アッシュ・マホガニーの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュ・マホガニーは、アッシュ・マホガニーの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●木 材 成長後の木材は淡黄色ですが、外側から赤や茶色になることがあります。これは乾燥によるものです。材質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●平均的音質特性 高音が鋭く、低音が柔らかい。音域が広く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p>	<p>●樹 木 アメリカ・マホガニーとアッシュ・マホガニーの一種が有名です。アッシュ・マホガニーは、アッシュ・マホガニーの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュ・マホガニーは、アッシュ・マホガニーの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●木 材 成長後の木材は淡黄色ですが、外側から赤や茶色になることがあります。これは乾燥によるものです。材質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●平均的音質特性 高音が鋭く、低音が柔らかい。音域が広く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p>

ムーアのカスタムギター&ベースにジョイントされたプラスチックネック。ギターは22フレット、ベースは21フレットと従来のフェンダータイプより1フレットだけ設計になっており、しかも独自の木部構造により、ネックをジョイントする際のボディ加工も必要最小限です。リアフィズメントとしても現在の使いやすさを取りはらして、ボディ加工なしでもフレット交換が可能です。フロントキャブは22フレット、リアキャブは18フレット。フィズメントはムーアが考案しました。よりクリエイティブな現代のミュージシャンには不可欠な、非常に大切なプラスチックフレットです。

そしてムーア・カスタムギターネックの指板 R は400 R。絶えずほとんどのネックが400R-320Rで、フィンガーボードのラウンドがきつすぎ、弦が大きく引っ張られる場合、指板センターのRのトップで大きく湾曲してしまつたという欠点がありました。また指板がきつすぎるとチューニングがしにくく、そこからいままではフルレンジフレットがムズカに聞こえる、いわゆる「フレットバウ」も起ります。1947年に誕生したこの新しいフレットは——主としてカントリーミュージックをプレイする職人がメインに考案されたフィンガーボードRでした。この30余年のフレットスタイルの進歩は、よりフレットバウに代わる良いサステーンをネック

に求める様になりました。400Rセミフラット指板は、各弦間のバランスの良いサステーン等、非常にバランスの良いセッティングを得る事が出来ます。更に、スムーズなフィンガリングが可能ならぬスムーズなポリッシュセッティングを採用。チューニングマシン等の音質の変化もありません。また、演奏性の向上のためにラージサイドマーカを採用しています。現代のギター・ミュージックの必要性から生まれた、より完成度の高いネック形状が、ムーア・プラスチック・400Rフレットなのです。

メイプル/カエデ	ローズウッド/紫檀	エボニー/黒檀	ウォルナット/エボニー指板
<p>北米産の樹木で広く分布し、ヨーロッパ、アメリカで重要な木材です。アッシュとグレイ・アルダーはヨーロッパ、レッド・アルダーはアメリカで重要な木材です。この種の特性は木材の密度と関係する。密度が高ければ、音質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●木 材 成長後の木材は淡黄色ですが、外側から赤や茶色になることがあります。これは乾燥によるものです。材質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●平均的音質特性 高音が鋭く、低音が柔らかい。音域が広く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p>	<p>北米産の樹木で広く分布し、ヨーロッパ、アメリカで重要な木材です。アッシュとグレイ・アルダーはヨーロッパ、レッド・アルダーはアメリカで重要な木材です。この種の特性は木材の密度と関係する。密度が高ければ、音質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●木 材 成長後の木材は淡黄色ですが、外側から赤や茶色になることがあります。これは乾燥によるものです。材質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●平均的音質特性 高音が鋭く、低音が柔らかい。音域が広く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p>	<p>北米産の樹木で広く分布し、ヨーロッパ、アメリカで重要な木材です。アッシュとグレイ・アルダーはヨーロッパ、レッド・アルダーはアメリカで重要な木材です。この種の特性は木材の密度と関係する。密度が高ければ、音質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●木 材 成長後の木材は淡黄色ですが、外側から赤や茶色になることがあります。これは乾燥によるものです。材質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●平均的音質特性 高音が鋭く、低音が柔らかい。音域が広く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p>	<p>北米産の樹木で広く分布し、ヨーロッパ、アメリカで重要な木材です。アッシュとグレイ・アルダーはヨーロッパ、レッド・アルダーはアメリカで重要な木材です。この種の特性は木材の密度と関係する。密度が高ければ、音質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●木 材 成長後の木材は淡黄色ですが、外側から赤や茶色になることがあります。これは乾燥によるものです。材質は硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p> <p>●平均的音質特性 高音が鋭く、低音が柔らかい。音域が広く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。アッシュは、アッシュの一種で、硬く、明るい音色になります。</p>



Not just another "Gallery of the Art"

PROFILE

Mr. Bill Bartolini は、1964年よりアコースティック・ギターの手工家として活躍するから、11年間にわたりあらゆる角度から楽器響関に関する調査、研究を行ってきました。ナイロン弦の楽器、スベーカーキャビネット、アンプ、ピックアップ等多多方面にわたる調査の後、1974年に本格的にマグネティック・ピックアップの製造に着手しました。そして1975年“Hi-A Pickups”として世界的初のリポフォニック(各弦独立Output System)ピックアップと共にブランド・デビューしました。磁気的ピックアップ、トーン・コントロール、リアアンプ内蔵のピックアップ等を発表。同年、従来のインピーダンスカーブによるピックアップの高音域は非常に高い評価を得ている事で立証されています。「10年以上にわたるピックアップ製作にあたって、開発、改良、その他に協力してくれた、たくさんの方々に感謝したいと思います。」というMr. Bill Bartolini の言葉を付け加えたいと思います。

Best Regards,
Bill Bartolini